

あおい通信 第66号

第66号平成22年11月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3-17-5
カトウビル3F
電話 03-3978-0919

我々は日常生活の中では、余り「国」を意識せずに暮している。しかし一旦、外国で何かの事故や事件に巻き込まれた時に頼りになるのは母国日本で、在外公館が国民の保護に当ってくれる。戦後六十五年、平和にドップリ浸かって来た日本人は、世界の何处でも日本と同様に安全と信じ、危機感が薄く、無防備だから盗難などのターゲットになり易い。

世評·時評

の漁船と海上保安庁巡視船の衝突が起きた時、政権党の民主党が何事も無かつたように平然と代表選挙を続け、大丈夫なのかと心配したが、その後の対応と処理の拙さは、日本の弱腰外交を世界に印象づけてしまった。

潜水艦が日本の領海近くをウロウロし始める。本来、日本は独立国なのだから、自國の安全は自分で守るべきだと思うが、戦争を放棄し日米安保証条約の傘の下で平和を享有してきた。しかし、この保で良いのだろうか？

もし中国が更に軍事力を強加し、南シナ海や東シナ海で跋扈し始めたら、最初に尤も影響を受けるのは沖縄だと思う。確かに、自分達の土地に違ひないが、強い抑止力になっているのも確かである。（やあこくらみ）

あおい年譜

一歩一歩も明日につながるばかり
今日も又ふれあう所莫かな
里芋は煮崩れ身し幸と似て
孫の縁やせいが喜ぶ敬老日
バス運転釣瓶落しに街暮れて

今力子
泉貞子
橋本廣子
山村匡子

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。



↑ 神田と言えばご存知「神田明神」ですが・・・

卷之三

「芝で生まれて神田で育ち、今じゃ火消しのまとい持ち」は端唄の一節だが、そのパロディが「芝で踏まれて神田で掏られ」で、共に祭礼時の繁盛ぶり混雜ぶりがうかがえる。これが江戸っ子を生む本拠地であったのだろ。

↑ お茶ノ水記念碑

京江戸散歩

味で氣に入り、その後も水が將軍家に獻上され、これがお茶の水の地名になつた。高林寺は対岸の順天堂病院の下あたりにあり、川の開拓工事で駒込に移転したが、地元有志がここに涌水の碑を建てたものである。

JRお茶の水駅の南が三崎町、そして駅西口の御茶の水橋を南北に走る明大通りの坂を下ると駿河台下の交差点に至る。この交差点の西側一帯が神保町である。

錦町三丁目、錦城学園の南側であるという説もある。江戸初期の幕政は、江戸の二代将軍秀忠と駿河（静岡）の大御所家康の二元政治の形をとつて行われた。家康が亡くなり幕政の機能が秀忠に一本化されると、駿府に詰めていた家臣団が江戸に呼び寄せられ

この小学校のある猿楽町一丁目及び二丁目付近の道筋、特にお茶の水小学校脇から神田女学館にかけてのカーブの具合などは、江戸切絵図と殆ど変わっていない。神田女学館は岩波書店の創立者・岩波茂雄が書店を始める前に教壇に立ったことがあり、やはり一世紀を超える歴史を持っている。尚、昔の江戸っ子は「猿樂」は「去る」に通じると云うので猿楽町をエチ楽町と呼んでいた。(続く)

てこの一帯に屋敷を拝領した。そこで駿河の衆が住む高台を駿河台と呼ばれるようになった。

駿河台下のお茶の水小学校（へ旧錦華小学校）は明治七年（一八七八）創立、その前年に錦町で創立された公立の錦坊小学校の分校として設置され、百年以上の歴史を誇る。

文豪夏目漱石が小学生の頃ここに学び、道路際に「我輩は猫である」の石碑が立つ。漱石の本名は金之助、明治十一年（一八七八）十二才の「金ちゃん」は錦華小学校に転入。ここで学び、学年をジャンプする飛び級の成績優秀な生徒であったと言わ

葵は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります

